

平成30年度 総括評価表

(評定) A:十分達成できた, B:概ね達成できた, C:達成できなかった

徳島県立城ノ内高等学校

重点課題		重点目標	評価指標と活動計画	自己評価 評価 * ( )は昨年度との比較で、増減ポイントを表す	学校関係者評価 学校関係者の意見	次年度への課題と 今後の改善方針	
リーディング ハイスクール 事業の推進 ① 中高一貫教育の推進	(全校レベル)	中高一貫教育校のメリットを最大限に活かし、本校の活性化に役立てる。 (下位組織レベル) 中学生と高校生の良好な関係構築。 中高教職員の緊密な連携による組織の活性化。 中高が連携したPTA活動の充実。	評価指標 ○「学校生活や学校の教育活動全般に満足している」と答えた生徒・保護者が80%以上。 ○「中学生と高校生の関係は良好である」と答えた生徒が60%以上。 ○「PTA活動や学年部会は活発である」と答えた保護者・教職員が80%以上。  活動計画 ①中高職員合同の会議を年20回以上、PTA役員会を年4回以上開催する。  ②中高合同の行事・作業・部活動・交流を行う機会を積極的に創設する。	評価指標による達成度 ○「学校生活や学校の教育活動全般に満足している」と答えた生徒80%(+1p)・保護者が88%(-1p)。 ○「中学生と高校生の関係は良好である」と答えた生徒64%(+4p)。 ○「PTA活動や学年部会は活発である」と答えた保護者84%(-1p)・教職員94%(+2p)。  活動計画の実施状況 ①中高職員合同の会議を36回(運営委員会12回、中等教育学校移行検討会12回、人権教育研修会・コンプライアンス研修会など職員会議12回)、合同のPTA役員会を4回開催し、共通理解を図った。 ②学校祭、予餞会、防災訓練、人権映画会、総合学習発表会などを中高合同で開催するとともに、音楽部やバスケ部など多くの部で合同練習を行った。	総合評価 (評定) <b>A</b>  (所見) 評価指標上の目標値は、すべて達成できているが、「中学生と高校生の関係は良好である」と答えた生徒が64%という数値は、まだ物足りない状況であり、さらに目標値を上昇させていく必要がある。 教年後に中等教育学校に移行する本校においては、積極的に中高生の交流を図ることが、中学生の模範となると努力する高校生と、尊敬する先輩のようになりたいと頑張る中学生とが、互いに相乗効果を生み出し、学校全体の活性化に繋げるための重要な鍵となる。	通常業務に加え、中等教育学校移行に向けての検討会を12回も開催していることに、教職員の努力と苦労を感じる。学校生活や教育活動全般に対する生徒の満足度を維持・向上させるための会議であってほしい。 中高の交流を活性化させるためのアイデアとして、例えば、様々な難問の問題を含めた共通のテストを中高の全生徒と全教員に取り組ませ、その解き方をプレゼンし合うことなどが考えられる。	①中高合同の行事・作業・部活動・その他交流を行う機会を、さらに一層積極的に創設する。 ②すべての中高教職員が、同じ中等教育学校の間僚・仲間であるという意識をしっかりと抱き、これまで以上に緊密に連携を図るための場を設ける。
	(全校レベル)	授業の充実改善に積極的に取り組み、全生徒の進路希望実現を目指す。 (下位組織レベル) よりよい指導計画や指導方法の工夫・改善。 全ての教師集団の協力による組織的な進路指導体制の構築。 確かな進路観や職業観の育成。	評価指標 ○「教員は学力を伸ばす教育を行っている」と答えた生徒・保護者・教職員が80%以上。 ○「教職員はわかる授業を目指して授業を工夫している」と答えた教職員が80%以上。 ○「生徒の希望を尊重したきめ細やかな進路指導ができています」と答えた生徒・保護者が80%以上。 ○「先生は生徒の進路相談や悩みについてよく相談にのってくれる」と答えた生徒・保護者が80%以上。  活動計画 ①研究授業・授業研究会を中高合同で実施する。  ②授業評価を年2回実施する。  ③進路に関する学年集会や講演会、及び大学講師等による出張講義を実施する。  ④学習実態調査と進路希望調査を実施する。	評価指標による達成度 ○「教員は学力を伸ばす教育を行っている」と答えた生徒83%(+3p)・保護者85%(+3p)・教職員94%(+1p)。 ○「教職員はわかる授業を目指して授業を工夫している」と答えた教職員96%(±0p)。 ○「生徒の希望を尊重したきめ細やかな進路指導ができています」と答えた生徒79%(-1p)・保護者79%(+1p)。 ○「先生は生徒の進路相談や悩みについてよく相談にのってくれる」と答えた生徒83%(+6p)・保護者80%(-1p)。  活動計画の実施状況 ①中高合同での研究授業・授業研究会を年14(昨年度15)回実施した。また、アクティブラーニング及びICT活用についての授業研究会(外部へ公開)を2回行った。 ②授業評価を年2回実施した。 ③計画的に学年集会や講演会等を実施した。 ・学年集会(4年5回、5年6回、6年9回) ・進路講演会(4年3回、5年3回、6年2回) ・出張講義(4年1回、5年1回) ④学習実態調査(4年5回、5年5回、6年4回)及び進路希望調査(4年3回、5年4回、6年2回)を実施した。	総合評価 (評定) <b>B</b>  (所見) 各評価指標とも目標をほぼ達成している。特に「教員は学力を伸ばす教育を行っている」の項目において、生徒・保護者・教職員すべてで昨年度より増となった。アクティブラーニングやICT活用の教育への取組に教職員一同自覚を持って取り組み、それが生徒や保護者の方々の評価に繋がったと考えられる。客観的に授業を振り返り、わかる授業、学力を伸ばす教育を目指して、さらに授業改善に取り組みなくてはいけない。 「進路・悩み相談」の評価においても、良好な評価ではあるが、目標値である80%以上にはわずかに届かなかった指標もある。生徒の希望を尊重したきめ細やかな進路指導をより一層心がけていく必要がある。 学年集会、進路講演会などは計画通り実施しており、生徒の反応は概ね良好であった。 授業評価・学習実態調査について回数は実施できているが、実施だけに留まらないよう、結果の検証や事後対応についての時間確保など、課題は残っている。	「進路相談や悩みについてよく相談にのってくれる」と答えた生徒が83%もあり、昨年度から6p上昇していることは評価に値する。個々の生徒の進路希望を尊重したきめ細やかな個別指導が重要であるので、継続してほしい。 進路観の育成に関しては、例えば、大学生、新社会人、管理職など人生の様々な段階の卒業生から講演やビデオメッセージ等を頂いて、生徒が刺激を受けるような取組などが考えられる。	①授業改善について、たゆまぬ努力を続けているが、アクティブ・ラーニングやICT活用について、さらに先進事例や教材の充実にも努められるような予算や時間の確保を、各教科会を中心として進める。 ②新テスト(大学入試)に向けての動きが本格化する中で、進路指導の大きな変化に対応するとともに、早く正確な情報を得て、何を残し何を削るかといった効率化を図っていく必要がある。また、よりよい進路指導体制を構築するために、職員会や資料交換など情報交換の機会をさらに増やす。 ③進路指導について全教員で個別指導にあたる取組をさらに推進し、課題を検証しつつ、さらなる充実を図る。 ④授業時数を確保し、先取り学習や単位制のメリットを最大限に生かす週35時間授業に適した教育課程の検討を引き続き行う。

重点課題		重点目標	評価指標と活動計画	自己評価 評価 * ( )は昨年度との比較で、増減ポイントを表す	学校関係者評価 学校関係者の意見	次年度への課題と 今後の改善方針
人権教育の 推進	(全校レベル)	すべての教育活動 で人権教育の推 進を図る。	評価指標 ○「すべての教育活動の中で人権に配慮し た指導が行われている」と答えた生徒・保護 者・教職員が80%以上。 ○「生徒は自他を大切に思う心や態度が 育っている」と答えた生徒・保護者・教職員 が80%以上。	評価指標による達成度 ○「すべての教育活動の中で人権に配慮した指導が行 われている」と答えた生徒80%(+8p)・保護者85%(± 0p)・教職員90%(±0p)。 ○「生徒は自他を大切に思う心や態度が育っている」と 答えた生徒68%(-2p)・保護者83%(±0p)・教職員73% (±0p)。	総合評価  <b>B</b>	成績順位やコミュ ニケーション力など が原因となって自己 肯定感の低い生徒 が現れてくる。生徒 の自己肯定感を育 む取組が重要であ るが、学力分野の リーディングハイス クール事業が決して その障害とならない よう注意する必要が ある。 誰かをからかうよ りも誰かを助けるほ うが人間は元気に なるので、勉強など で困っている人を助 けてあげるような体 験やしぐさを多く取 り入れてほしい。
	(下位組織レベル)	ホームルーム活動 や学校行事の充 実。	活動計画 ①人権学習ホームルーム活動の研究授業・ 研究協議、事前研修会を実施する。 ②人権問題意見発表会を実施する。 ③人権問題講演会を実施する。 ④職員研修を校内で年2回、校外で年1回 実施する。	活動計画の実施状況 ①各学年で研究授業・研究協議を実施するとともに、毎 回、事前研修会を学年別に実施した。 ②全校生徒を対象に人権教育意見発表会を実施した。 ③5年生を対象に人権問題講演会を、また4年生対象 に「スマホ・ケータイ安全教室」を実施した。 ④中高合同の教職員研修会を校内で2回、校外での地 域研修会を1回実施した。		
基本的生 活習慣の確立 と道徳性の 涵養	(全校レベル)	学校は家庭と連携 し、生徒の基本的 生活習慣の確立を 図る。また、いじめ を絶対許さない姿 勢を示し、いじめ の未然防止に努 める。	評価指標 ○「学校は家庭と連携し、生徒の基本的生 活習慣の確立に努めている」と答えた保護 者・教職員が70%以上。 ○「学校生活全般において時間が守られて いる」と答えた生徒・保護者・教職員が70% 以上。 ○「生徒は挨拶ができています」と答えた生 徒・保護者・教職員が70%以上。 ○「服装頭髪について校則が守られている」と 答えた生徒・保護者・教職員が70%以上。 ○「生徒は交通ルールや交通マナーが守ら れている」と答えた生徒・教職員が60%以 上。	評価指標による達成度 ○「学校は家庭と連携し、生徒の基本的生活習慣の確 立に努めている」と答えた保護者73%(-1p)・教職員 90%(+2p)。 ○「学校生活全般において時間が守られている」と答え た生徒77%(-1p)・保護者93%(-3p)・教職員88%(-2p)。 ○「生徒は挨拶ができています」と答えた生徒48%(+7p)・ 保護者84%(+5p)・教職員53%(+20p)。 ○「服装頭髪について校則が守られている」と答えた生 徒73%(+20p)・保護者90%(+2p)・教職員76%(±0p)。 ○「生徒は交通ルールや交通マナーが守られている」と 答えた生徒62%(+8p)・教職員55%(+5p)。	総合評価  <b>B</b>	「挨拶ができています」 生徒の伸びは、「5 のつくだのあいさつ 運動」などの成果だ と思われる。朝夕の 挨拶は人間としての 基本であり、全生 徒・全教職員がしつ かりとできるよう今 後も指導していつて ほしい。 本校は生徒の通 学距離が最も長い 学校だと思ふ。それ だけ危険に遭遇す る確率も高いため、 交通ルールやマ ナーを守らせる指導 を継続してほしい。 服装頭髪について は良好な状況であ るが、安全装備上 の理由で服装頭髪 規則を設けている 職業は意外と多く存 在するため、教職員 は、遅刻指導ととも に、服装頭髪を指導 する理由を繰り返し 生徒に伝えていつて ほしい。
	(下位組織レベル)	「挨拶の励行」の 徹底。 服装頭髪指導の 徹底。 積極的ないじめ の認知と対応。 交通ルールや交 通マナーの遵守に 向けての取組推 進。	活動計画 ①遅刻者は「遅刻指導票」を提出させる。 ②5のつくだ日には、朝のあいさつ運動を実施 する。 ③服装頭髪検査を定期的実施する。 ④学校生活に関するアンケート(いじめを含 む)を年2回実施する。 ⑤毎月交通マナーアップ運動を実施する。	活動計画の実施状況 ①授業遅刻も含め遅刻した生徒には「遅刻カード」に理 由を記入し提出させ、教頭の指導後入室させた。 ②5のつくだの登校時には、正門周辺で生活委員があ いさつ運動を実施した。 ③定期的(学期に2回)に、全校集会や学年集会で服装 頭髪検査を実施した。 ④いじめの項目を含む学校生活に関するアンケートを 年3回実施し、内容について検討、面談等て対応した。 ⑤毎月の学校安全の日には、生活委員、教職員によつ て登校時に交通マナーアップ運動を実施した。		

平成30年度 総括評価表

(評定) A:十分達成できた, B:概ね達成できた, C:達成できなかった

徳島県立城ノ内高等学校

重点課題		重点目標		自己評価		学校関係者評価		次年度への課題と今後の改善方針	
				評価指標と活動計画				学校関係者の意見	
		評価指標		評価指標による達成度		総合評価			
災害を迎え撃つ防災・安全教育の徹底	(全校レベル) 防災・安全教育を徹底し、災害へ備えるとともに、事故防止に努める。	○「学校は防災意識の高揚に努めるとともに、防災への取組を推進している」と答えた生徒・保護者・教職員が75%以上。	○「学校は防災意識の高揚に努めるとともに、防災への取組を推進している」と答えた生徒65%(+1p)・保護者78%(+3p)・教職員92%(+16p)。	(評定) <b>B</b> (所見) 評価指標の達成度を見ると、教職員の割合が大幅に向上したが、生徒の回答は指標に到達していない。 防災避難訓練は、発生時刻を知らずに抜き打ちで行ったり、様々な事態を想定して内容を工夫したりしており、自分たちより立場の弱い園児や高齢者の方々と一緒にすることで、主体性・自主性を持たせ、災害意識の向上と積極的な取り組みを推進できた。	避難訓練に幼稚園児を参加させたり、地域の方々と一緒に炊き出し訓練をしたりしていることは評価に値する。「自助」だけでなく「共助」の精神も育む取組が重要であり、近隣の社会的弱者を助けられる人材を育ててほしい。 例えば、高大連携プロジェクトの一環で徳島大学の環境防災研究センターに防災士資格取得のための授業を依頼することも考えられる。	①防災・安全教育への取組では、地域との連携にまだ課題があると思われるので、地域の方々とともに連携し、合同の避難訓練の内容や防災クラブの活動を活性化させるよう計画し、実行する。 ②防災クラブの活動の一環として、校外での研修会等に、より一層積極的な参加を促していく。			
	(下位組織レベル) 防災意識の高揚に努め、防災への取組推進。	活動計画 ①防災避難訓練(火災・地震・津波)を年2回実施する。 ②年2回以上、地域の方と連携をとり共同で活動する。 ③災害時における家庭との連絡体制を、より強化する。	評価指標による達成度 ○「清掃に積極的に取り組み、美しい環境が維持できている」と答えた生徒64%(-1p)・教職員67%(-7p)。 ○「ゴミの分別や節電・節水に取り組んでいる」と答えた生徒62%(±0p)・教職員78%(+8p)。 活動計画の実施状況 ①防災避難訓練を5月(地震・津波)と10月(地震・火災)に実施した。 ②青嵐認定こども園の園児や地域の方々と連携をとり、防災避難訓練を2回実施した。また、2月に防災炊き出し訓練を地域の方々と一緒に実施した。 ③「緊急時の生徒引き渡しカード」をすべての学年で作成し、災害時における家庭との連携体制を強化した。						
環境教育の推進	(全校レベル) 環境教育への取組を推進し、学習の場にふさわしい環境を整える。	○「清掃に積極的に取り組み、美しい環境が維持できている」と答えた生徒・教職員が80%以上。 ○「ゴミの分別や節電・節水に取り組んでいる」と答えた生徒・教職員が80%以上。	○「清掃に積極的に取り組み、美しい環境が維持できている」と答えた生徒64%(-1p)・教職員67%(-7p)。 ○「ゴミの分別や節電・節水に取り組んでいる」と答えた生徒62%(±0p)・教職員78%(+8p)。	(評定) <b>B</b> (所見) 「清掃」についての評価指数達成度が昨年度より低下している。校舎の老朽化、特にひび割れたり剥がれたりした床やトイレの現状から「美しい環境の維持」は難しい点もあるが、清掃への取り組みに個人差があることも問題であるため、清掃活動の意義について考え、主体的に取り組めるよう施策を講じていきたい。 ゴミの分別については、教室内の分別はほぼ良好であるが、放課後や土・日の部活動の後、自動販売機付近で飲んだペットボトルや昼食の弁当等の処理に問題がみられる。 節電・節水については、全校生徒に広報し、活動内容について理解を深め、さらに無駄を減らして節電・節水に努めるよう意識の向上を図りたい。	「美しい環境が維持できている」というアンケート項目は誤解も生じかねないため、文言の検討が必要であろう。 電気と水道の月別使用量をグラフ化する取組は効果をあげていると思われる。可能であれば、委員会活動または日直の生徒などに日別の測定をさせることが一層効果的ではないだろうか。 吉野川堤防清掃は、できるだけ多くの生徒が参加できるよう、学校が奨めてほしい。	①4月当初に清掃の手順を生徒に丁寧に指示する。また、普段から生徒に清掃の意義を伝えるとともに、主体的に清掃活動に取り組むよう指導・監督する。 ②ゴミの分別や節電・節水については、こまめにチェックして回り、その都度気付いたことを注意しながら、生徒の意識を改善する働きかけを継続して行う。 ③月毎の電気・水道使用量の推移をグラフ化して掲示することを継続し、節電・節水への意識を高める。			
	(下位組織レベル) 清掃への積極的な取組、美しい環境の維持。 ゴミの分別や節電・節水への取組。	活動計画 ①日頃からゴミの分別を推進する。 ②使用水量、使用電力の推移をグラフ化して掲示し、節水・節電への意識を高める。 ③吉野川堤防清掃活動や学校周辺の清掃活動に、年2回以上取り組む。	活動計画の実施状況 ①各クラスの整美委員が中心となってゴミの分別を推進し、教室や職員室、特別教室等、すべてのゴミ箱で分別回収の徹底に努めた。 ②電気と水道の使用量をグラフ化してアセンブリホールに掲示し、節電・節水への意識向上に努めた。 ③吉野川堤防清掃を2回実施した。また、学校周辺の落葉拾いや溝掃除などの清掃活動や除草作業を2回行った。 ④カーテンの新調やクリーニング、暗幕の設置など学習環境を整備した。						

平成30年度 総括評価表

(評定) A:十分達成できた, B:概ね達成できた, C:達成できなかった

徳島県立城ノ内高等学校

重点課題		重点目標		自己評価		学校関係者評価	次年度への課題と今後の改善方策
		評価指標と活動計画		評価 * ( )は昨年度との比較で、増減ポイントを表す		学校関係者の意見	
特別活動の活性化	(全校レベル) 学校行事や部活動を充実させ、学校全体を活性化させる。	評価指標 ○「学校行事は充実しており、生徒が生き生きと取り組んでいる」と答えた生徒・保護者・教職員が80%以上。 ○「部活動は活発である」と答えた生徒・保護者・教職員が70%以上。 ○「部活動と勉強の両立を図ろうとしている」と答えた生徒・保護者・教職員が70%以上。	評価指標による達成度 ○「学校行事は充実しており、生徒が生き生きと取り組んでいる」と答えた生徒83%(±0p)・保護者90%(+3p)・教職員94%(+8p)。 ○「部活動は活発である」と答えた生徒80%(+3p)・保護者83%(+8p)・教職員65%(-7p)。 ○「部活動と勉強の両立を図ろうとしている」と答えた生徒80%(-4p)・保護者79%(-4p)・教職員80%(-14p)。	総合評価 (評定) <b>B</b>		入部率が若干低下しているとはいえ、他校に比べると高いと思われる。中等教育学校への変革期であるが、入部率を維持できる環境づくりに努力してほしい。考査期間の部活動の時間制約については、練習内容の効率化のためにも、厳格に守らせるべきである。学校祭では、6年間をステップアップしていく体系的な取組や、全学年を縦割りしたチームでの催しも考えられる。	①学校行事について、中等教育学校への移行を鑑み、行事の精選と充実を推進させる。また、6年間を見据えて効果的に体系的に実施できるように検討を深める。さらに、委員会活動を活性化させ、生徒が生き生きと諸活動に取り組めるようにする。 ②部活動について、効率のよい練習を工夫し、部活動と勉強の両立を図れるように各部が努めていく。 ③各行事、特に城ノ内祭について、生徒の安全に留意して計画を見直す。城ノ内祭模擬店における指導を維持・改善し、食中毒や事故の危険性をさらに低減させる。また、球技大会での接触による生徒間のトラブルを抑制する。
	(下位組織レベル) 学校行事の内容の充実。部活動の活性化。部活動と勉強の両立。	活動計画 ①学校行事は生徒が主体的に運営に携われるよう実施する。 ②部活動が活性化するよう広報やPRに努力する。 ③活動の効率化や考査前の活動自粛など、部活動と勉強の両立体制を確立する。	活動計画の実施状況 ①文化祭、体育祭、球技大会などの学校行事は、生徒会主体に運営され、生徒も積極的に参加した。 ②部活動加入率は4年生83(昨年86)%、5年生79(昨年86)%、6年生84(昨年82)%であった[4月現在]。 ③全部活動で、考査期間中の活動を届出制とし、試合等が近い部に限り原則1時間以内という制約を設けて実施した。	(所見) 評価指標上の目標は、ほぼ達成できているが、部活動の入部率は4、5学年においては低下している。 学校行事はほとんどの生徒が、主体的・積極的に取り組んでいる。 部活動に対する教職員等の評価の低下は、4年生や5年生の入部率(部員数)が減少していることに加え、学習時間(授業時数)の確保や超過勤務時間の短縮が推奨されていることもあり、特に運動部が活動しにくい状況にあると認識されていることが予想される。			
開かれた学校づくりの推進と郷土愛を育む教育の推進	(全校レベル) ホームページを充実し、学校を公開する機会をつくる。また、地域資源を生かした多様な体験・交流活動を行う。	評価指標 ○「ホームページは本校を理解してもらうのに役立っている」と答えた保護者が80%以上。 ○「中学校体験入学や学校公開の日、文化祭の公開は本校を理解してもらうのに効果的である」と答えた保護者・教職員が80%以上。 ○「自然体験活動やゴルフ研修など地域資源を生かした多様な体験・交流活動が行われている」と答えた生徒・保護者・教職員が80%以上。	評価指標による達成度 ○「ホームページは本校を理解してもらうのに役立っている」と答えた保護者84%(+4p)。 ○「中学校体験入学や学校公開の日、文化祭の公開は本校を理解してもらうのに効果的である」と答えた保護者93%(±0p)・教職員88%(-6p)。 ○「自然体験活動やゴルフ研修など地域資源を生かした多様な体験・交流活動が行われている」と答えた生徒81%(±0p)・保護者87%(+2p)・教職員88%(+28p)。	総合評価 (評定) <b>A</b>		本校は、言わば「地元がない学校」であるので、ホームページや学校公開は特に重要な意義がある。学校祭や防災訓練などへの参加を促し、近隣の方々に本校を認めってもらう必要がある。また、総合学習の発表会なども上手に広報すると、さらに良い効果を生み出すのではないだろうか。中等教育学校の生徒募集にとっても情報発信が最も有効な手段である。	①本校の理解、周知に向け、中学生体験入学の参加者が増えるように、内容の一層の工夫充実を図り、広報活動にも力を入れる。 ②中等教育学校への移行の時期に高校からの入学志願者を確保するため、中学校での進学説明会や中学校訪問により高校の積極的なPR活動を行うとともに、本校での高校説明会開催を継続する。 ③各部、各課に依頼して、ホームページの新着記事を増やし、さらに充実したものにする。また、新聞やテレビなどの取材に積極的に応じて、学校のPRに努める。
	(下位組織レベル) ホームページ等を通じた情報発信の充実。中学生体験入学や学校公開の日、文化祭の公開など学校公開の機会の充実。地域に根ざした体験活動・行事の実施。	活動計画 ①ホームページの更新にすべての教員が関わり、週2回以上更新する。 ②スクールガイドを発行し、中学生体験入学を実施する。 ③「学校公開の日」を実施する。 ④文化祭を公開する。 ⑤自然体験活動やゴルフ研修など地域資源を生かした多様な行事を実施する。	活動計画の実施状況 ①ホームページへの年間アクセス数は519,085回(昨年度比17%増)、総アクセス数は3,766,889回であった[1月現在]。 ②スクールガイドを発行した。8月に中学生体験入学を実施し、参加者は144名(昨年度196名)であった。 ③10月に学校公開の日を実施し、参加者は628(昨年度596)名であった。 ④文化祭(9月)を公開し、1818(昨年度2074)名が来校した。 ⑤4年生で自然体験活動(4月)を、6年生でゴルフ研修(7月)を実施した。	(所見) 開かれた学校づくりに関する評価指標の目標は、すべて達成できている。体験入学、文化祭や学校公開は、本校を理解してもらうのに効果的であると判断できる。今後も充実させながら継続していく必要がある。 ホームページも活発な情報発信を継続でき、アクセス数も増加した。 また、昨年度より中学生体験入学への参加人数は減っているが、ほとんどすべての参加者から好評を得ている。9月と12月の2回、本校において中学生とその保護者、教員対象の高校説明会を開催して、参加人数は昨年度より増加した。			